

ICTを効果的に活用した授業づくり

～一人一人に応じた主体的・対話的な学びの深化を目指して～

千葉県立船橋特別支援学校 電話 047-439-5811
FAX 047-438-9948



研究のポイント

本校児童にとっての「主体的・対話的で深い学び」について定義し、その視点に沿って本校の実践についての成果や課題をまとめた。実践を整理していく中で、主体的・対話的な学びの深化につながるICTの効果的な活用方法について検討した。

■学校の概要

<https://cms1.chiba-c.ed.jp/chibapref-funabashi-sh/>

本校は、昭和53年に開校した、肢体不自由のある子どもたちのための県立特別支援学校で、今年度は、創立42周年を迎えた。学区は「船橋市・市川市・浦安市・習志野市・八千代市」の5市が基本となる。

開校時から、平成26年度までは、小学部、中学部、高等部の児童生徒を教育する学校であったが、平成27年4月の県立船橋夏見特別支援学校開校に伴い、小学部だけの学校として再スタートを切った。

本校の強みの一つに、「地域支援活動」がある。その一環として、現在、肢体不自由（からだ）・聴覚障害（きこえ）・視覚障害（見え方）の3障害種にわたって、地域の小・中学生を対象に「通級による指導」を展開している。

■研究課題

ICT機器を活用した授業実践について本校児童の主体的・対話的で深い学びの視点に沿って整理し、効果的なICT機器の活用方法や授業実践の在り方についての研究を行う。

■研究の目的と方法

【目的】

- ・主体的・対話的な学びの深化につながる、ICT機器を活用した授業づくりには、ICT機器のどのような使い方が効果的かを明らかにする。

【方法】

- ・本校で行っている実践について教育課程ごと（通級指導を含む）に整理する。
- ・実践について、本校児童の主体的・対話的で深い学びの視点に沿って、成果や課題をまとめる。
- ・外部講師を招いたICT教育に関わる全校研修会を開き、全校職員でICT機器を効果的に使った授業づくりについて考えていく。

■研究概要

【実践について】

本校児童の主体的・対話的で深い学びを次の3つに整理した。「自分で選んだり、自分の考えを表現したりして、自分から活動に参加すること」「友達や先生と一緒に考えて、考えを深めること」「深まった考えを、次の活動や別の活動に発展させること」である。具体的実践は次の通りである。

- WEB会議システム（zoom）を使った遠隔授業
- WEB会議システム（zoom）を使った交流学习
- タブレット端末のアプリやカメラ機能の活用
- パソコン、プロジェクターの活用
- 全方位カメラ、スイッチ教材、Mabeeの活用
- 拡大鏡、UDブラウザの活用

【成果】

- 自分自身でICT機器を操作したり、見たり、選んだりすることによって、自分の考えや思いを表現することができた。（主体性）
- ICT機器を通して友達との話し合いの場面を作ったり、ICT機器を使った遊びを友達や教師と一緒にいたりすることで、友達や教師と共同で考えることができた。（共同）
- ICT機器を使うことで、児童が別の活動に興味をもったり、意欲的に次の活動に取り組んだりするなど、活動が広がった。（発展）

【課題】

- 自分の考えをより深めるために、ICT機器をどう活用していくか、活動内容や工夫について考える必要がある。（発展）
- ICT機器を他者との対話に使用するだけでなく、教材との対話や自分自身との対話にも使う視点で活用していくことも大切である。（共同）
- 考えを広めたり、深めたりする活動や工夫について、さらに検討していくことが必要である。（発展）

【次年度に向けて】

- 児童一人一人に合ったICT機器を引き続き使用し、児童の主体的な活動を支援していく。（主体性）
- ICT機器を友達や教師との共同活動に進んで取り入れる。（共同）
- ICT機器を、自分の考えを次の活動に生かす、別の活動に発展させるなどの活動に組み込み、深い学びにつなげていく。（発展）

関連資料

- 次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ 補足資料
文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm